

社会福祉法人廿日市市社会福祉協議会

平成25年度事業報告

社会福祉法人廿日市市社会福祉協議会では、次に掲げる基本理念、基本方針をもとに各事業を実施した。

基本理念

「住民一人ひとりが主役の福祉のまちづくり」

基本方針

3つのアプローチにより、次の「重点的な取組み」を中心に各事業を推進する。

3つのアプローチ

- 第1 当事者の力を生かす取組み
- 第2 地域の力を生かす取組み
- 第3 関係諸機関を繋げる取組み

重点的な取組み

- 第1 判断能力の不十分な人たちへの取組み
- 第2 小地域の見守り強化や閉じこもり防止への取組み
- 第3 災害時に向けた取組み

第1 当事者の力を生かす取組み

同じ課題を抱えた当事者同士の各種活動への支援、当事者自身が力を発揮できる環境づくり、組織化の促進を行うと共に課題解決を図れるように取組んだ。

1 福祉総合相談事業 (市補助 1,504千円)

市民の相談ごと、悩みなどの解決支援等のために、次の相談事業を行なった。

(1) 心配ごと相談所の開設 (271回)

32人の相談員を委嘱し、次のように「心配ごと相談所」を開設した。

地域	開催日時	場所	開催回数	相談件数
廿日市	火・金 (13:00~16:00)	あいプラザ	102回	66件
佐伯	水 (13:00~16:00)	佐伯社会福祉センター	51回	23件
吉和	水 (13:00~16:00)	吉和福祉センター	35回	7件
大野	木 (13:00~16:00)	大野福祉保健センター	51回	18件
宮島	月 (13:00~16:00)	宮島福祉センター	32回	7件

(2) 総合相談およびボランティア相談の実施

土・日・祝祭日を除く毎日9:00~17:00

(3) 専門相談 (司法書士相談および認知症介護相談)

項目	協力機関・団体	開催回数	相談件数
司法書士法律相談	広島司法書士会広島西支部	12回	64件
認知症介護相談	認知症の人と家族の会	16回	38件

(4) 心配ごと相談員研修会の開催

心配ごと相談員の専門性および資質向上のための研修会を開催した。

地域	廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島
開催月	6月・9月・12月・3月	なし	8月	3月	2月

(5) 相談傾向の分析と福祉ニーズの把握

・全相談件数の推移

項目	25年度	24年度	23年度
相談件数	17,746件	19,371件	16,883件
心配ごと相談開設日	271日	274日	287日
総合相談開設日 (対応:市社協職員)	244日	244日	244日
専門相談開設日 (司法書士・認知症)	28日	22日	25日

2 福祉サービス利用援助事業 (県社協委託 5,806千円)

判断能力が不十分で不安のある人が安心して地域生活ができるよう権利擁護を目的に医療機関、地域包括支援センター、福祉施設及び民生委員等への周知に努めつつ、福祉サービス利用援助、日常的金銭管理、重要書類等預かりサービスを実施した。

(1) 生活支援員の確保と研修の充実

ア 各生活支援員が担当しているケースについては随時、情報共有、支援方針を検討する等、協議や連絡調整を重ねることで相互の信頼関係の構築と資質の向上に努めた。

イ 生活支援員人数 (地域別)

廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島	大竹	計
17人	4人	1人	9人	1人	1人	33人

ウ 生活支援員の資質向上のための研修会を開催した。(年3回)

主催	開催日	内容	参加者
市社協	第1回 4/19	「コミュニケーションのいろは」 講師：廿日市市社会福祉協議会 会長 蛭江 紀雄 「障がい者福祉に関する制度やサービス」 講師：廿日市市 障害福祉課 山本 裕行さん	19人
	第2回 3/27	「生活支援員の基本」 講師：広島県社会福祉協議会 あんしんサポートセンターかけはし 二木 美帆子さん	20人
県社協	12/10	「生活支援員活動からみた権利擁護について」 講師：広島大学院社会科学部研究科教授 横藤田 誠さん 「利用者のこころをつかもう！ ～寄り添うコミュニケーション～」 講師：アイ.コミュニケーション 石井 千恵さん	15人

(2) 関係機関との連携強化

ア 自立支援ネットワーク権利擁護部会へ参加し、権利擁護についての考え方、課題整理、研修会の開催等、関係機関で協議した。

イ 福祉サービス利用援助事業運営連絡会議の開催（2月25日）

広島弁護士会、リーガルサポートひろしま、廿日市金融機関懇親会、県西部厚生環境事務所、廿日市市社会課、地域包括支援センター、障がい福祉相談センターきらりあ、民生委員児童委員協議会、県社会福祉協議会等による運営連絡会議を開催した。

ウ ケース会議等

多問題世帯や社会的孤立状態にある人など、対応苦慮するケースについて、本人が置かれている状況等を、関係機関（地域包括支援センター、市行政関連部所、福祉施設、病院、民生委員等）で情報共有し、支援方針、役割分担等について協議するとともに、ネットワークの構築に努めた。様々なケースを通して、関係機関と連携して支援を行ったことで協力関係が強化された。

(3) 組織内の連携強化および担当職員の資質の向上

ア 福祉サービス利用援助事業の専門員および担当職員を複数配置し、実施体制を強化するとともに、組織内の担当職員による会議の開催や情報共有等、連携して事業実施した。

イ 相談援助職としての技量の向上を目的とした専門員実践力強化研修会Ⅱ（全社協主催 2月27日～3月1日）を受講。事例検討をもとに、地域のなかでの関係機関との連携について学び、専門員としての視点や知識・技術を習得した。また、家計相談支援推進セミナー（島根県社協主催 11月18日）では、本人とともに長期的・短期的目標を設定し、継続的に関わることで信頼関係を築きながら、目標に向けて本人主体で取り組んでいく援助技術等について学んだ。

(4) 現状と実情

ア 地域別実利用人数

廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島	計
54人	6人	1人	15人	4人	80人

イ 事業開始からの契約件数累計

	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	計
契約件数	105件	25件	52件	18件	200件

ウ 訪問、窓口、電話等による相談・調整・支援件数

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	計
2,191件	2,442件	3,123件	994件	8,750件

エ 会議等開催、参加状況

主催	運営連絡会議	1	ケース会議等	16
	生活支援員研修会	2	社協内担当者会議	12
	法人後見運営準備委員会	1		
参加	専門員実践力強化研修会Ⅱ	1	地域包括ケア研修会	1
	専門員連絡会議	2	家計相談支援推進セミナー	1
	生活支援員研修会	1	法人後見事業担当者連絡会議	1
	自立支援ネットワーク権利擁護部会	4	成年後見制度勉強会	3

(5) 事業の周知およびニーズの掘り起こし

ア 19件の新規相談があった。(内、契約11件)

イ ケアマネージャー連絡会議、やすらぎ支援員研修等において事業説明を行った。

(6) 法人後見事業実施に向けての準備

ア 県社協主催の法人後見事業担当者連絡会議等に参加し、県内の市町社協による法人後見事業の実施状況を把握。また成年後見制度勉強会等へ参加し、法人後見業務に必要な知識を身につけた。

イ 広島弁護士会やリーガルサポートひろしま、廿日市市民児協、廿日市市行政関連課等及び市社協で構成する「法人後見運営準備委員会」を開催し、県内市町社協による法人後見事業の実施状況等の共有及び、当社協における法人後見事業の実施方針等について協議した。(2月25日開催、出席者15名)

3 高齢者関連事業

(1) 認知症高齢者等支援事業(市委託・自主・共募412千円)

認知症等になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域づくりを目指し、次の通り事業を展開した。

ア 認知症にやさしい地域づくりネットワーク形成

はいかいSOSネットワークを運営し、行方不明者の早期発見・保護に努めた。

対応件数	無事発見・保護件数	事前登録者数
2件	2件	139人

(ア) はいかいSOSネットワーク運営連絡会議の開催(7月19日)

(イ) 啓発活動の実施

開催日	会場	内容	参加者
10/5	フジグラン ナタリー	はつかいち介護の日PRイベント	
12/14	あいプラザ	はいかいSOSネットワーク講演会 「支え合いで広げる地域の輪 ～子どもから高齢者まで～」 講師：NPO法人このゆびと一まれ 理事長 惣万 佳代子さん	82人

- イ はいかい高齢者家族支援サービス
位置検索端末機の貸出 2台（保有台数 10台）
- ウ 認知症高齢者支援会議
年6回、関係者が集まり、認知症関連事業の取り組みについて協議した。
- エ キャラバン・メイトおよびサポーター養成

- (ア) キャラバン・メイトの養成
大竹市が担当だったため、開催について協力した。
- (イ) 認知症サポーター養成講座の開催

分類	受講団体	回数	受講者
地域	老人クラブ、市民センター、サロン他	12回	240人
職域	—	0回	0人
学校	金剛寺小学校、津田小学校、大野西小学校	3回	126人
計		15回	366人

- (ウ) 地域別の取組み

【佐伯地域】

日時	内容	参加者
8/10	役員会	4人
8/23	平成24年度事業報告、平成25年度事業計画について	10人
10/27	「心と心のハーモニーフェスタ」にて、寸劇上演およびパンフレット配布	12人

【吉和地域】

- ・認知症予防サロン「まけまあ家（や）」を市と協働開催することで、認知症の予防と意識啓発に努めた。
- ・吉和地域のキャラバン・メイトと地域包括支援センターと連携し紙芝居や寸劇を発表した。これを通して、認知症の人への対応方法や正しい知識の周知に努めた。

【大野地域】

- ・キャラバン・メイト大野宮島地域部会プロジェクト（年8回）
- ・キャラバン・メイト連絡会（5/9）

- (2) 高齢者家事援助事業（廿日市・佐伯・吉和 市委託 15千円）

「つどい」事業やファミリーサポート事業と連携させ、地域での自立生活を支援したが、今年度は利用者の都合で休止が多く、実績が減った。

利用者	2人(3人)	サービス提供件数	9件(82.5件)	(前年度実績)
-----	--------	----------	-----------	---------

- (3) 高齢者等移送サービス事業（大野 共募 912千円）

大野福祉保健センターで行なわれている「ふれあい相談」「一般・乳幼児健診」や図書館・市民センター・医療機関などへの利便を図り、利用者が社会参加できるように支援を行なった。

【巡回車両の運行・利用実績】（毎週火、第二・四木曜日 午前・午後各2便の運行）

午前1便	午前2便	午後1便	午後2便	(前年度実績)
32人(49人)	38人(33人)	45人(45人)	74人(78人)	

- (4) 高齢者自立支援事業（宮島 名称新規 自主・共募 201千円）

概ね70歳以上のひとり暮らし高齢者や生活に不安を感じる高齢者世帯を対象に、関係機関と協働し、地域見守り活動も兼ねて事業を実施した。

- ア 高齢者給食サービス事業

宮島町食生活改善推進協議会と協働し年6回、3つの地域に会場を分けて実施した。

開催日	場所	対象者	参加者
4/16・6/18・7/16 10/15・1/21・2/18	中西集会所 宮島市民センター 宮島福祉センター	概ね70歳以上の ひとり暮らし高齢者	延べ117人

イ ひとり暮らし高齢者懇談会

消防署などによる時節柄の啓蒙活動も盛り込みながら実施した。

開催日	場所	内容	参加者
5/21	宮島市民センター	協力：宮島町女性会 『社協事業について』 (講師：社協宮島事務所)	18人
12/17	宮島福祉センター	協力：宮島地区民生委員児童委員協議会 『振り込め詐欺について』 (講師：広島県警)	26人

ウ あんしんほっとコール事業

ひとり暮らしに不安を抱える5人の高齢者世帯に対して、希望される曜日や時間に電話による定期連絡を行い、安否確認や見守り活動を実施した。

4 車イス貸出事業 (自主・共募 15千円)

高齢者・障がい者および緊急的に車イスが必要な人のために、車イスを貸出すことにより日常生活の利便向上に努め、市内小中学校での福祉体験活動の用具として貸出した。

貸出台数	245件 285台(前年度実績 232件 261台)
	内訳 廿日市地域：138件 173台 佐伯地域：18件 17台
	吉和地域：14件 14台 大野地域：66件 68台
	宮島地域：9件 13台

5 障がい児・者関連事業

(1) リフトカー貸出事業 (市委託・自主 951千円)

廿日市・佐伯・吉和・大野事務所に6台のリフトカーを配置し、移動の手段が一般車両では困難な市民や、福祉団体に貸出しを実施した。通院やスポーツ、美容院、家族との小旅行、当事者団体のつどい、講演会・会議への参加などに利用してもらうことができた。

車両の老朽化にともない、吉和、廿日市(うち1台)の車両を新車に更新できて、利用者から「利用しやすくなった」と喜びの声をいただいた。

【貸出し件数】

() 内は前年度実績

廿日市全域	廿日市	佐伯	吉和	大野
6台	2台	1台	1台	2台
717件(744件)	325件(363件)	60件(44件)	242件(261件)	90件(76件)

(2) 障がい児者指定居宅介護等事業 (廿日市・佐伯・吉和 自主 22,051千円)

障がい児者の自己決定を尊重し、地域で安心して暮らせる障がい児者福祉推進に努めた。合わせて、相談支援業務をにらんだ情報収集・交換に努めた。

ア 訪問介護員の派遣

在宅障がい児者世帯に対する訪問介護員の派遣などを行なった。

(ア) サービス利用時間数 (イ) 内は前年度実績

身体介護	家事援助	移動(視覚)	移動(知的)	移動(全身性)
1334.0時間	715.5時間	295.5時間	7018.5時間	2007.0時間
(1927.75時間)		(543.5時間)	(6572.5時間)	(1668.5時間)

(イ) 契約者数 (ロ) 内は前年度実績

法区分	児童	知的障がい者	身体障がい者
契約者数	11人(12人)	82人(75人)	19人(21人)

(ウ) ヘルパー数 (エ) 内は前年度実績

サービス提供責任者	1人(1人)
登録ホームヘルパー	73人(91人)
視覚障がい者ガイドヘルパー	80人(67人)
知的障がい者ガイドヘルパー	51人(48人)
全身性障がい者ガイドヘルパー	103人(91人)

イ 研修の実施

開催日	内容	参加者
9/19, 10/15	廿日市市消防署による救命講習	50人
1/16	障がいのある人の権利擁護と虐待防止について	7人
2/16	なちゅは広島 負担のないケア技術セミナー	50人
3/2	勉強会 交流、事例検討など	25人

ウ 関係機関との連携

行政や他事業所と連携をとりながら請求事務を行うほか、利用者のニーズを把握すると共に、市社協の他活動や事業を活かした対応に努めた。

(3) 情報支援事業(市委託 1,335千円)

聴覚や視覚に障がいのある人たちへの各種支援を実施した。

ア 奉仕員の派遣

手話奉仕員、要約筆記奉仕員を派遣し意思伝達の手段を確保した。

聴覚障がい者への情報保障などのために、講演会、会議等へ手話奉仕員の派遣および要約筆記奉仕員の派遣調整を行なった。

【手話派遣実績】 (イ) 内は前年度実績

	件数	時間数	利用者数	実働者数	登録通訳者数
個人派遣	188件 (191件)	294時間 (294時間)	30人 (19人)	23人 (23人)	31人 (31人)
団体派遣	24件 (21件)	44時間 (43時間)	—	42人 (45人)	—

【要約筆記派遣実績】 (ロ) 内は前年度実績

	件数	時間数	利用者数	実働者数	登録通訳者数
個人派遣	33件 (40件)	83時間 (92時間)	4人 (3人)	9人 (11人)	19人 (18人)
団体派遣	12件 (8件)	19時間 (25時間)	—	46人 (16人)	—

イ 奉仕員の養成

中途失聴および難聴者へ情報提供し、社会参加を支援する要約筆記奉仕員を養成するため、講座を開催した。

講座回数 全7回 計14時間 受講者数 12人

開催日	内容	参加者
9/7～10/19	要約筆記の基礎、難聴者の理解等	延べ75人

視覚障がい者に点訳による情報を提供し、社会参加を支援する奉仕員を養成するため、点訳奉仕員養成講座を開催した。

講座回数 全4回 計8時間 受講者数 7人

開催日	内容	参加者
6/10, 17, 24, 7/1	点字の基礎、応用（パソコン点訳等）および視覚障がい者の生活上の問題等	延べ23人

活動中の手話奉仕員のレベルアップを目指すことを目的に、手話奉仕員ステップアップ講座を開催した。

講座回数 全1回 2時間

開催日	内容	参加者
12/5	手話通訳者の健康について	11人

活動中の音訳奉仕員のレベルアップを目指すことを目的に、音訳奉仕員勉強会を開催した。

講座回数 全1回 2時間

開催日	内容	参加者
2/20	音訳の基礎知識、読み方および校正技術	11人

ウ 情報の提供

視覚障がい者への音訳テープとして、「広報はつかいち」（毎月1日発行）、「さくらびあ物語」（毎月1日発行）、「市議会だよりさくら」（6・8・11・2月の原則10日発行）、「あいとぴあ」（偶数月15日発行）、点訳本として「広報はつかいち」（毎月1日発行）、「さくらびあ物語」（毎月1日発行）、「市議会だよりさくら」（6・8・11・2月の原則10日発行）「あいとぴあ」（偶数月15日発行）などを提供した。

(4) 視覚障がい者生活訓練事業（市委託 173千円）

中途失明の視覚障がい者が日常生活で介助者を頼ることなく外出ができ、社会活動ができるようになるため、歩行訓練（愛命園）を行なった。

訓練回数 10回 16時間15分

(5) 知的障がい者生活訓練教室開催事業「すこやか教室」（吉和 市委託 129千円）

ア 日常生活上必要な訓練・指導、社会参加の促進や生きがい作り

イ ボランティア活動がしやすいように土曜日などに実施

開催日	内容	場所	参加者
4/13	交流・生活訓練 ・畑づくり、アルミ缶整理ほか	吉和福祉センター	15人
5/18	外出訓練・社会参加 （花のある吉和づくり協力） ・ひまわりの種まきほか	吉和福祉センター 周辺	9人
6/1	外出訓練 ・グラウンド・ゴルフ体験	潮原第一集会所	19人
7/6	生活訓練 ・食事づくり（講師）、会食	吉和保健センター	12人
8/24	交流 ・ボランティア吉和交流会に参加	吉和福祉センター	17人

10/5	創作活動 ・作品づくり：紙すき（講師）	吉和福祉センター	14人
11/2	外出訓練、社会参加 ・すこやかプラザまつりでのコーナー出店	吉和福祉センター	5人
12/7	創作活動 ・作品づくり：リース（講師）	吉和福祉センター	11人
1/11	新春初笑い（交流・レクリエーション） ・ゲームほか	吉和福祉センター	10人
2/1	生活訓練 ・食事づくり（講師）、会食	吉和保健センター	12人
3/1	反省会・生活訓練 ・一年間の振り返り	吉和福祉センター	8人

(6) 障がい者スポーツ教室開催事業（吉和 市委託 11千円）

スポーツに接する機会の少ない障がい者とその家族を対象に、自立と社会参加の促進を図るため、スポーツ教室を開催した。吉和児童クラブも参加し、交流した。

開催日	内容	場所	参加者
8/9	障がい者スポーツ指導員による「障がい者スポーツ体験」（フライングディスク、ビーンボーリング他）	吉和福祉センター	17人（障がい者7人、児童クラブ10人）

(7) 遊びの教室事業（廿日市・佐伯・吉和 自主・共募 672千円）

長期休暇中の在宅障がい児に家庭だけでは体験できない豊かな経験の場・学校の枠を超えた交流の場を提供するとともに、家族の負担軽減を目的として、春休みに2回・夏休みに10回・冬休みに1回実施した。夏休みはより安全に配慮して臨時職員を雇用し、春休み・冬休みは民生委員やボランティアに関わってもらった。継続して参加して下さるボランティアが学生も含めて増えてきた。

開催日	内容	場所	参加者 (子ども)	Vo・スタッフ (職員含む)
4/3	午前：お弁当を作ってお花見に行こう 午後：スポーツレクで楽しもう	あいプラザ・新宮中央公園	17人	24人
7/24	午前：昼食づくり 午後：電車でフジグランへ買い物	あいプラザ フジグラン	9人	15人
7/26	おやつ作りとこども喫茶	あいプラザ	10人	14人
7/30	宮島の文化に触れよう。(手焼きもみじ饅頭・杓子づくり体験)	宮島	9人	12人
8/1	おやつ作りとこども喫茶	あいプラザ	12人	16人
8/5	午前：昼食づくり 午後：電車でフジグランへ買い物	あいプラザ フジグラン	8人	14人
8/7	宮島の文化に触れよう。(手焼きもみじ饅頭・杓子づくり体験)	宮島	10人	12人
8/9	大野に行って大野の友達とスポーツレクで楽しもう	大野福祉保健センター	10人	12人

8/20	大野地域の小さな夏まつりに遊びに行こう	大野福祉保健センター	10人	14人
8/22	うどん作りとはつぴーまつり	あいプラザ	12人	18人
8/23	うどん作りとはつぴーまつり	あいプラザ	9人	17人
12/26	午前：もちつき 午後：凧づくり、凧揚げ、ビンゴゲームで楽しもう	あいふらぎ	14人	26人
3/26	安佐動物公園にバスハイク	安佐動物公園	18人	23人

保護者アンケートからも、遊びの教室に大きな期待を持っていただいていることを感じた。

保護者アンケート

- ・余暇に、将来にわたって楽しめる大好きなことをみつけてやりたいと思っています。
- ・子どもに「やらせてみたい」「行かせてやりたい」と思うプログラムが用意されている「遊びの教室」を毎年、心待ちにしています。ここでの経験で、母の気持ちが前向きになりました。
- ・「遊びの教室」ではいろいろな人との交流があり、子どもにとって楽しいだけでなく良い社会勉強にもなっていると思います。人との出会いがいつも楽しみです。
- ・卒業後も成長をみていただいたり、やりとりが続いたらいいなと思います。

(8) 障がい児・者福祉支援 (佐伯 名称変更 自主 98千円)

ア 障がい児地域支援

さいき障がい児と親の会「みかん」の定例会に参加するなど各種活動を支援した。

イ わんぱく旅行実行委員会への協力

在宅障がい児を対象にした一泊旅行を家族、ボランティア、関係者と企画し協力した。

開催日	内容	実施場所	参加者
5/17	第1回実行委員会 予算・行き先等の方針決定	廿日市社会福祉協議会佐伯事務所	家族：9人 ボランティア：1人
7/28	事前交流会(1) ①ボランティア・参加者の顔合わせと交流 ②元山先生を迎えて家族学習会	津田市民センター	当事者：12人 家族：20人 ボランティア：13人
8/24 ～ 8/25	「わんぱく旅行」 出雲ゆうプラザ 松江フォーゲルパーク	島根県出雲市・松江市	本人：8人 家族：12人 ボランティア：7人

ウ 日帰りバスハイク

在宅障がい者を対象にした日帰り旅行を家族、ボランティア、関係者と企画した。台風の為、中止とした。

(9) 障がい者地域社会交流事業 (吉和 共募・市補助 122千円)

ボランティアとの交流、外出意欲の増進を図るため「日帰りバスハイク」を実施した。

開催日	場所	対象者・家族	ボランティア・職員
6/14	呉市、第二音戸大橋、ほか見学	11人	5人

(10) 障がい児者地域生活支援事業 (大野 共募 249千円)

ア ハーモニーOB・OGの活動支援

「ハーモニーキッズOB・OG」メンバーが、「地域の一員」であることの意識高揚につながるよう支援した。隔月で連絡会議を行なった。

開催日	実施項目	内容	参加者
5/25・7/13 9/7・11/16 1/18・3/22	職場体験学習	廿日市市高齢者ケアセンターの協力で、一般就労の職場体験を行なった。体験者一人に一人「ジョブコーチボランティア」が付き添い、見守りおよび声かけを行なった。	のべ12人 (ボランティアのべ12人)
5/3 10/31 3/13	喫茶「ぽっぽ」	高齢者ケアセンター内の喫茶「ぽっぽ」で昼食の販売	のべ12人 (ボランティアのべ21人)
6/11 11/12 2/18	鍋奉行 (ケアセンター)	高齢者の集い「サロン阿品」での昼食づくりの連絡調整を行った。	のべ12人 (ボランティアのべ9人)
7/27	2区深江集会所	2区ふれあいサロン(さわやか会)でのカレー作り	8人
12/11	お化粧品教室	阿品清鈴園の入所者へのお化粧品ボランティア(ヤクルト化粧品の方と一緒に)	3人
9/14	接客講座	職場体験実習のための接客講座を行った。	4人
2/22	料理講習会	喫茶「ぽっぽ」の春のメニューをみんなで作る。	4人(ボランティア4人)

イ 障がい児によるボランティアグループ「ハーモニー」の活動支援(再掲)

「ハーモニー」が地域との交流を深めるための調整を行なった。

開催日	実施項目	内容	参加者
7/27	2区深江集会所	2区ふれあいサロン(さわやか会)でのカレー作り	8人

ウ 障がい児を育てる親の会「メロディ」への支援

学習会を企画・実施した。

開催日	実施項目	内容	参加者
11/30	学習会	発達障がいについて 講師：河村 理英子先生	26人

エ 障がい者団体連絡協議会への支援

情報交換や在宅障がい者自立生活訓練(宿泊訓練)の企画等を行なった。

開催日	実施項目	内容	参加者
4/16	運営会議	大野障害者団体連絡協議会による前年度報告等	9人

オ 障がい者の交流事業

障がい者が交流したり、ふれあいの場を企画・実施した。

開催日	実施項目	内容	参加者
8/20	小さな夏祭り	大野障害者団体連絡協議会・ボランティア連絡協議会・ボランティア学園・大野東西中学校生徒会のボランティア活動による企画・実施	500人
3/18	4事業所（ワークハウスアダージョ・ふれあい生活介護・あいあい作業所・ぱすてる）交流会	大野地域内の事業所の利用者が集まった交流会	150人

(11) 精神保健福祉支援事業 (佐伯 共募 26千円)

ア 当事者支援

精神保健福祉ボランティアグループ「ちゅうりっぷ」の活動支援を行なった。また、おしゃべりサロン「こぶし会」定例会に出席して活動支援を行なった。

イ ボランティア養成

精神保健福祉講座の開催

開催日	内容	実施場所	参加者
3/13	テーマ：障がいがあっても住み慣れた地域で暮らしたい。「うつ病について」 講師：精神保健福祉士 木村雅昭さん	津田市民センター	26人

(12) 精神障がい者地域生活支援事業 (大野 自主・共募 90千円)

こころの病気を抱えている人たちが住み慣れた大野地域で豊かに暮らしていけるように次の支援事業を行なった。

ア 精神保健福祉ボランティア養成講座

人材育成を目的に、市民を対象とした啓発・交流事業を行なった。

回	開催日	内容	参加者
1	1/23	【講座】 精神障がいのある人の理解と関わり方 講師 日本赤十字広島看護大学 笹本美佐さん	25人
2	1/28	【講座】 大野地域での精神保健福祉活動について 講師 あいあい作業所 理事長 八木琢之さん、所長 武地成章さん、作業所メンバー3名	11人
3	2/4	【施設見学】 先進地域で精神保健福祉活動を見学しよう 場所 就労支援センター「FLaT」(広島市中区)	11人
4	2/25	【おしゃべり会】 講座の振り返り・感想・ソーシャルクラブ活動について	8人

イ ソーシャルクラブ（精神サロン）への協力

毎月第2火曜日実施の「精神障がい者ソーシャルクラブ（プラム）」の取組みに対して、保健行政と連携をとりながら協力した。

ウ 地域と作業所の自主活動への支援（再掲）

あいあい作業所と6区有志による古川あいあい公園での清掃活動を支援した。

6 不登校・ひきこもり支援事業（廿日市 自主・共募 325千円）

不登校・ひきこもりの子どもや若者、家族が相談できる場や居場所の開催を行った。居場所は、昨年度ボランティア養成講座を受講したボランティアに協力してもらった。また、「学習会」「講演会」を開催し、不登校・ひきこもりの理解を深めるための啓発を行った。

(1) 親の会の開催

9回開催 延べ参加人数 28人

うち1回はタッピングタッチの講習会に参加して、こころと身体の緊張をほぐし、保護者のリフレッシュを図ることができた。

(2) 居場所開催

毎週火曜日開催 延べ参加者数 70人 延べボランティア参加者 285人

安心して自由な時間を過ごしてもらい、元気を取り戻してもらうことを目的とした居場所では、自立への1歩として月1回はクッキングの日とし、簡単にできる調理を行い、好評だった。

(3) 講演会・学習会の開催

回	開催日	内容	参加者
1	12/15	【学習会】 「不登校 子どもの気持ちを知って考える」 講師 不登校経験者 島夢美さん・馬場耕介さん 東京シューレ 中村国生さん	58人
2	3/8	【講演会】 「いじめ・不登校・ひきこもり」 ～学校に行かないってどんなこと？それは生命を守ることで す～ 講師 心理カウンセラー・子ども相談室「モモの部屋」主宰 内田良子さん	61人

(4) 親の会通信の発行

8回

(5) 不登校・ひきこもり相談

28件

7 福祉コミュニティ支援事業（宮島 自主・共募 50千円）

福祉コミュニティづくりを目的とした住民参加型の支援事業を実施した。

(1) 紙門松配布事業

従来の門松等の虚礼を廃止し、資源保護などを目的に紙門松を配布した。

配布時期	配布世帯	配布枚数
11/29	852世帯	1,704枚

(2) エプロンクラブ・男の料理教室

栄養士の指導により、食生活の見直しを図れるよう調理実習を行った。また、サークルが自主運営化できるよう側面的支援に努めた。

開催回数	場所
12回（毎月第一金曜日）	宮島市民センター

- (3) 地域ふれあいフェスタ
福祉関係団体などと協働し、住民一人ひとりが福祉に関心を示してもらう地域イベントとして福祉まつりを開催した。
- (4) 葬儀用具貸出事業（宮島 自主 5千円）
生活改善による葬儀の簡素化や地域コミュニティづくりのため、貸出事業を継続した。
貸出件数 0件

8 各種貸付事業

- (1) 高額療養費貸付事業（自主483千円）
平成24年4月から制度改正により、申請手続きは市（国保年金係）がすべて行うこととなったため、平成24年3月以前の申請があった場合のみの受付となった。

月	申請件数	金額
4月	1件	249,040円
9月	1件	233,664円
計	2件	482,704円

- (2) 緊急生活安定資金貸付事業（自主75千円）
緊急に生計の維持が困難になった世帯に対し、生活費を貸し付けることにより、経済的自立および生活の安定を目指した支援を行うことを目的とした事業である。
・償還滞納者が2名あり、督促状を送付した。

【申請・貸付件数】

月	件数	金額
11月	1件	75,000円

（平成26年4月15日 償還完了）

- (3) 生活福祉資金貸付事業（県社協委託3,564千円）
低所得者・障がい者・高齢者等に対して、資金の貸付と民生委員による必要な援助指導を行うことにより生活の自立と安定、経済的自立および生活意欲の助長、促進を支援した。

また、失業者等に対して、日常生活全般に困難を抱えており、生活の立て直しのための継続的な相談支援と貸付を行なうことにより自立が見込まれる世帯を支援した。

・償還につながるように、借受人・連帯借受人・連帯保証人・民生委員と連携し、状況の把握に努めた。

・県社協からの送付文書により残額の通知、滞納者に対する督促を行なった。

	相談件数	申請件数
生活福祉資金	158件	10件
臨時特例つなぎ資金	0件	0件

- (4) 住宅支援給付事業（市委託2,702千円）
離職者であって就労能力および就労意欲のある方のうち、住宅喪失または喪失の恐れのある方に対して、住宅手当を支給することにより、住宅および就労機会の確保に向けた支援をした。

また、平成25年5月27日開催の廿日市・大竹地域生活福祉・就労支援協議会に参加し、関係機関との連携を図った。

相談件数	申請件数	就労者数
7件	2件	1件

第2 地域力を生かす取組み

小さな地域だからできるさりげない「支え合い」を共有し広げることで、自分でもできる関わりに気付いたり、地域から孤立している状況を発見したり、判断能力が十分でないなどのために、自ら問題解決に向かうことが難しい状態にある人々を、地域で支えていく仕組みづくりに取組んだ。

1 小地域ネットワーク事業 (共募・市補助182千円)

地域の福祉課題は地域で解決できる体制を確立していくために、様々な地域の取り組みのバックアップをした。

(1) 地区社協事務局活動費の助成

地区福祉部会（地区社会福祉協議会やコミュニティ推進協議会の福祉部会等）に対し事務局活動費を助成し、活動の活性化を図った。

(2) 地域福祉推進団体の視察研修調整・同行

地域福祉推進団体が実施する視察研修先との調整および視察研修へ同行した。

(3) 地域福祉推進団体の総会への参加および勉強会にて市社協事業の説明

地域福祉推進団体の総会などに出席した他、勉強会などにて市社協事業などの取組み説明や福祉ニーズの聞き取りなどを行い、各種事業の周知の他、地域住民の福祉に関する意識向上を図った。

2 多機能サロン実施事業 (吉和 自主300千円・新規・イチ押し事業)

高齢者サロン、福祉作業所、障がいデイサービス、子育て中の親子の行き場といった多目的な要素を併せ持ったサロンを運営することで、地域や自宅で孤独感を感じず、また心身ともに健康な生活ができる場づくりをした。

開催回数	開催場所	内容	参加人数
39回	吉和福祉センター 吉和保健センター 他	ラジオ体操／カラオケ／料理つくろ う家に参加／血圧測定／食事作り／ 草取り／パステルアート／まけま あ家参加／ボーリング／料理教室参加 ／DVD鑑賞／ドライブ／芋ほり／ 外食／美術館鑑賞／芋の袋詰め／文 化祭作品見学／書き初め／雑談 他	延べ319人

3 地域のつどい・サロン支援事業 (自主・共募・市補助1,367千円)

地域の集いが地域住民の力で自主運営され、小地域の見守り強化や閉じこもり防止など地域に根付いた活動になるよう要望に応じた支援および新たなつどい、サロンづくりの支援を行なった。

(1) 廿日市地域

高齢者、障がい者、子育て世代、その他の方対象のサロンの活動推進・拡大を目的に事業を展開し、地域の当事者による取り組みを支援した。

ア 集い（サロン）関係者を対象とした研修会の実施

ア 一般・サロン関係者を対象とした支援

開催日	取り組み	内容
6/26	食中毒予防講座	市保健センターとの共催による食中毒の基本情報、食品の衛生管理の知識習得を目的にした会食を伴うサロンへの情報提供（参加者：34人）

(イ) 地域のサロンの自主運営を目指し、継続的に開催されるための支援

取り組み	内容
レクリエーショングッズ貸出	活動に必要なレクリエーショングッズの貸出し実施（68件）
各種助成金案内	活動が地域で安定して運営されることを目的とした「ささえあい活動助成事業」により、新規3サロン、継続8サロンへ助成した。
保険案内と加入事務	サロン開催時におけるケガ等の補償のためのボランティア行事用保険、活動保険の案内と加入事務
情報提供	サロンを探している方に対する紹介、サロンへのボランティア調整等

イ 情報共有・不安解消のため、地域ごとのサロン交流会の実施

(ア) サロン世話人のためのおしゃべりサロンの開催

サロン活動の充実と、世話人同士で悩みや喜びを共有することを目的にサロン世話人を対象とした、交流会を実施した。世話人同士の横つながりができただけでなく、新規立ち上げサロンや新任世話人への情報提供をスムーズに行うことができた。

開催日	内容	参加者
9/5	交流	41人
10/18	健康づくり応援団の紹介、交流	20人
11/21	サロンでの認知症の方への対応について（認知症サポーター養成講座）、交流	12人
12/12	会食、ボランティア紹介、交流	14人
1/30	ゆる体操紹介、交流	17人
2/24	レクグッズ案内、交流	10人

(アンケートから)

- ・参加者が少ない悩みをだしたら、それをいい所ととらえて楽しむことを提案してもらえた。
- ・自分のやっていることが新しい方や困っている方の参考になったかなと思った。
- ・やっていく苦労や喜びが共有でき、助言も頂けて参考になった。
- ・長年つづけておられるサロンの世話人の話を聞き、大変参考になった。
- ・サロン世話人をやっていてよかったことは、地域の沢山の方を知る事が出来たこと。集まって来られる方と顔見知りになり、町内でおしゃべりしたりして高齢者の方の見守りが出来る事。

ウ サロンの実態把握と周知

(ア) サロンマップの発行

後掲の廿日市市介護予防対策事業により、サロンマップを発行した。

(イ) イベントでの周知

開催日	取り組み	内容
11/10	あいプラザまつり	<ul style="list-style-type: none"> ・一般の方への周知を目的に、サロン活動紹介ポスターの展示、および終了後の同館1階ロビー展示 ・縁側サロンの協力による干支色紙づくり体験コーナーの設置

エ 小地域のお茶の間づくり事業の推進

(ア) 「地域のお茶の間づくり事業」の指定（県社協委託事業 2年目）

各地区で開催するサロン活動のさらなる活性化により地域福祉を推進するため、サロン常設化へ向けた機能強化を図るため、サロン・ド・四季が丘に助成を行った。

- ・常設となってからは、月1回のサロンに加え、ミニサロンを増設し、月11～13回開催している。3月までの参加者219人延べ1,576人。「ほっと」できる居場所と「ちょっと困った」が言える相談所機能が芽生えてきている。
- ・認知症・閉じこもり・子育て不安・障がい児対応などの具体的課題が、見えて来ている。
- ・学生ボランティアの受け入れを県・市社協とともに実施したり、二次介護予防の場として地域包括支援センターと協力したりしている。

(2) 佐伯地域

ア レクリエーションのための道具の貸出（延べ119件）

イ 「ひまわり日和」でのサロンの活動状況などの広報活動（年6回発行）

ウ サロン連絡会議 6月6日開催

講座：サロンの効用について

講師：広島県社会福祉協議会 上田正之氏

参加者：14人

エ 音楽サロン「オルゴール」浅原・玖島・津田各地域で毎月1回開催

日時	実施回数	実施場所	参加者
毎月第1月曜日	12回	浅原市民センター（共催行事）	延べ229人
毎月第4金曜日	12回	津田市民センター（共催行事）	延べ454人
毎月第3水曜日	12回	玖島市民センター（共催行事）	延べ151人

※浅原、津田両市民センターでは各保育園児の参加による世代交流をすすめた。

オ 1月25日、障がいのある子どもたちがお手伝いする「出前サロン」を開催した。

カ 「赤ちゃんすくすく広場～0歳児の子育てサロン～」について、子育て支援ネットワークと連携を取りながらの企画・運営を支援した。

(3) 吉和地域

開催日	取り組み	内容	参加者
通年	各種サロンの支援	カラオケサロン・囲碁の集い・よりあいサロン等各サロンへの活動支援	1回あたり約2～10人
1月～3月 毎週水曜日	よしわ ふれあいサロン	冬期の閉じこもり防止を目的にした カローリング等の実施	1回あたり 約15～20人
随時	広報活動	「すこやかプラザまつり」での活動 紹介等のパネル展示 社協だより「ぬくもり」紙上でのサ ロン参加者の募集、活動報告	
随時	レクリエーション 用具貸出	各サロンへのカローリングやペタン ク、スロービー等用具の貸し出し	

(4) 大野地域

地区福祉部会・老人クラブを主体とした高齢者サロンの推進や当事者による「セルフヘルプ・サロン」（当事者による 相互支援サークル）の取り組みを支援した。さらに今年度は広島県社協指定事業の「地域のお茶の間づくり」に向けて、各地域との調整や、サロン立ち上げへの支援を行った。

ア ふれあいサロン（各区）に助成金交付（11か所）

イ セルフヘルプサロンへの活動支援を行った。

- ・大野ソーシャルクラブ「プラム」（精神保健福祉サロン）への協力（再掲）
- ・障がい児を育てる親の会「メロディ」と一緒に「おしゃべりサロン」を開催

1月29日 参加者10人

ウ サロンマップの編集会議の開催（1月16日）

エ レクリエーション道具の貸し出し（随時）

オ 広島県社協指定事業「地域のお茶の間づくり」に向けて、各地域との調整立ち上げへの支援を行った。立ち上げ後の広報等も行った。

取組み		内 容	参加者
あんしんサポート リーダー研修		お茶の間サロンの要となる「安心サポートリーダー」 育成にかかる研修（県社協主催）－3回 11/7・11/20・12/9	延べ 14人
立ち上げ 支援	1区	・地区役員説明会（2/16） ・トライアル開催参画（3/20）	延べ 20人
	2区	・地区世話人代表（1/29） ・地区世話人会の立ち上げ説明（2/26） ・地区全体説明（3/24）	延べ 40人

(5) 宮島地域

サロン名	開催日	開催場所
サロンにきんさい	毎月2回 第1・3水曜日	宮島市民センター
すずめ会	毎月11・25日	杉之浦市民センター

(6) 全域

開催日	取組み	会場	内容	参加者
3/18	ワイワイ 交流会	宮島福祉 センター	・グループワークを通じ、サロンのイメージ を共有した。 ・講師として健康づくり応援団を招き、サロ ンで役立つ体操を学んだ。 ・他地域の活動紹介を行った。	13人

(7) 廿日市市介護予防対策事業(市委託827千円)

地域住民が自主的な運営をしている「ふれあいサロン」、「地域のつどい」の活動場所や内容がわかるマップを作成し（21,000部）、情報提供を通じさまざまな方や各種機関に取り組みや市内の福祉活動の動向を周知、住民の福祉への関心を高めることに努めた。

ア 会議の実施

マップの作成にあたり、地域住民の協力を得て作成することに努めた。

実施名	実施日	実施内容	地域	参加人数
サロン世話人のためのおしゃべりサロン	9/5	・サロンマップの趣旨等の説明 ・イメージの共有 ・情報提供、協力の依頼	廿日市	41人
職員会議	9/28	・イメージの共有 ・様式、部数、予算、等について	全体	6人
サロン世話人のためのおしゃべりサロン	10/18	・サロンマップの趣旨等の説明 ・イメージの共有 ・情報提供、協力の依頼	廿日市	20人
サロン連絡会議	11/18	サロンマップについて意見交換	佐伯	8人
サロン世話人のためのおしゃべりサロン	12/12	サロンについてのイメージの収集	廿日市	14人
職員会議	12/25	・イメージの共有 ・仕様、データでの提出方法等について	全体	7人
サロンマップ編集会議	1/16	・サロンマップの趣旨等の説明 ・イメージの共有 ・情報提供、協力の依頼	大野	7人
サロン世話人のためのおしゃべりサロン	1/30	サロンについてのイメージの収集	廿日市	17人
サロン世話人のためのおしゃべりサロン	2/24	・サロンマップ校正段階の意見聴取 ・訂正箇所の確認	廿日市	10人

イ 配布

市民に幅広く情報提供するため、作成したマップについて、各事務所、市関係施設への設置、民生委員、サロン関係者等に配布した。

4 ファミリー・サポート・センター事業 (市委託・自主 4,242千円)

多様化する福祉ニーズ、とりわけ少子高齢社会に対応するため、依頼会員と提供会員の橋渡しを行った。また、活動を通して依頼会員と提供会員の間に“ほっと”なつながり作りや気軽に“SOS”が出せる関係作りができることを目指し、活動が終了しても「お互いが気にかけてあう付き合いができています」といううれしい報告を、会員からいただいている。“ほっと”なエピソードはファミサポだよりに掲載し、ファミサポだよりをみて新規の提供会員の登録があったり、依頼会員から問い合わせがあったり市民に事業のPRをすることができた。

() 内は前年度実績

登録会員数	1,088人【依頼会員 673人、提供会員 370人、両方会員 45人】 (1,019人【依頼会員 622人、提供会員 352人、両方会員 45人】)
利用(活動)実績	2,316件【育児 315件、介護 2,001件】 (2,465件【育児 435件、介護 2,030件】)

広報活動	「あいとぴあ（市社協広報紙）」記事掲載（2回） 提供会員募集記事、研修会実施記事を掲載 「ファミサポだより」発行（2回） 民児協の定例会・社協ホームページで随時提供会員を募集
研修会・交流会の開催	研修交流会開催（11回・参加者 142人） 研修会内容 6/1 子育て支援交流会 6/11 子育てサポーター養成講座 6/12 子育てサポーター養成講座 6/26 食中毒予防講座 9/29 幼児安全法 11/19 子育てサポーター養成講座 11/20 子育てサポーター養成講座 1/26 タッピングタッチ講座 2/3 子育て支援ボランティア養成講座① 2/12 " ② 2/14 " ③

〈提供会員の活動報告書の中から〉

育児のサポートが始まって3年3か月。帰り際に突然「来年になったら、〇さん（提供会員のこと）の家にお泊りにいくけんね～」と、いつの間に覚えたのか広島弁丸出しの大きな声。「ほんと？じゃあ指切りげんまん」と小指どおしを組んで♪うそついたら・・・の～ます♪と二人で指切り。いつも、私から「お泊りにこない？」と聞くと、嬉しそうな顔で「嫌だいやだ～ぜったいにいや！！」と逃げ回っていたのに・・・今日はきっと勇気をふりしぼって言ったんでしょうね。ありがとう。

初めて会ったころは、人見知りかひどくて会うたびに火がついたように泣いていたのにね。あの時にやめなくてよかった。続けてきたからこの喜びにあえるんですね。続けてきてよかった！！

5 地域福祉活動事業（佐伯 名称新規 自主305千円）

(1) 福祉委員活動推進事業

地域住民と協力して福祉活動を実践し、助け合いのネットワークをすすめるため、福祉委員活動を推進した。

福祉委員	110人
福祉委員会議	地域の現状や福祉課題を把握するため開催
内容	4月23日 全地区合同（玖島、友和、津田・四和、浅原） 協議題：市社協事業計画、福祉委員活動、日赤社資・会費（参加者延べ25人）
	9月18日 玖島・友和 9月19日 津田・四和 9月20日 浅原・全地区 協議題：市社協事業報告、共同募金等使途、日赤社資・会費募集状況、共同募金・歳末たすけあいの募集（参加者延べ26人）
その他の活動	地域のサロン、敬老会などの取り組みや「心と心のハーモニーフェスタ」への協力と参加、民生委員と連携したニーズ把握

(2) 福祉施設等連絡会の開催

佐伯地域での施設間の交流・連携を図り、共通の問題を取り上げ、今後の取り組みについて検討した。また、佐伯地域ケア会議との連携も図った。

開催日	内容	参加団体数
4/25	会の取り組み、ヤングボランティア、施設の現況等	8
7/25	「心と心のハーモニーフェスタ」、施設のまつり等	5
12/5	「心と心のハーモニーフェスタ」の反省、さいき障がい児と親の会「みかん」の施設見学、施設の現況等	5
1/23	佐伯地域ケア会議構成員との情報交換	7

(3) 福祉施設職員相互研修の開催

市内の福祉施設に勤務する職員延べ67人が、他施設で1日～3日間を過ごし、情報交換や交流ならびに研鑽を深めた。(延べ参加日数 72日)

期間	参加施設
7/1～9/30	(廿日市地域) くさのみ作業所、ピクトハウス、さくら作業所、コーヒーショップあんず、デイサービスセンター清鈴園、特別養護老人ホーム清鈴園、障害者支援施設原(確認中) (佐伯地域) デイサービスセンターさいきせせらぎ園、ゆうわせせらぎ園、広島ひかり園、友和の里、夢工房、津田子供の家 (大野地域) あいあい作業所、洗心園、望海の里、べにまんさくの里、ラメール大野、大野ふれあい生活介護事業所

(4) 広報啓発活動(再掲)

奇数月月上旬、佐伯地域の福祉情報紙「ひまわり日和」を発行した。

6 ふれあいのまちづくり推進事業(大野 自主・共募・県社協助成5,468千円)

小地域での福祉活動推進のため、各区福祉部会や関係機関等により地域福祉推進委員会を組織し、情報共有や研修等を行った。

大野地域での支えあい活動の輪を広げ、地域での福祉課題解決の仕組みづくりに向けて各区の福祉部会への支援を行った。

(1) 大野地域福祉推進委員会の開催(年2回)

開催日	会場	内容	参加者
6/20	大野福祉保健センター	①平成25年度地域福祉推進事業報告 ②平成25年度地域福祉事業計画 ③「地域のお茶の間づくり事業」の説明 広島県社協 主事 河内広行さん	27人
7/22	【訪問研修】 呉市川原石地区 「和の家」見学	呉市川原石地区の「和の家」の見学後、世話人さんに話を聞く	17人
1/16	大野福祉保健センター	①サロンド四季が丘の実践報告 四季が丘地区町内会連合会 会長 藤田 章さん 四季が丘地区社会福祉協議会 会長 向井 恵子さん	17人

(2) 第33回地域福祉推進研究協議会

開催日	会場	内容	参加者
3/1	大野福祉保健センター	【テーマ】 地域の安心を支えるために 神奈川県立保健福祉大学 准教授 中村 美安子さん	100人

(3) 区福祉部会概況・活動内容とふれあいサロン運営状況のまとめ

(4) 広報「ふれまちだより」を隔月15日に全戸配布(10,900部)

(5) 大野地区民生委員児童委員協議会訪問研修の企画調整

大野東地区民児協先進地訪問研修 東広島市河内地域「ほっとほっと」の見学
(11月1日)

(6) 各区福祉部会への支援。

ア 地区福祉部会活動費の助成 11地区

イ 各地区自主活動費 11地区

ウ 一般会費地区交付金(7割分)の交付 11地区

エ 地区福祉部会への支援

対象区	内容
1区	【広報取材】 ・1区ふれあいサロン(ボランティアニュース2月号) 【お茶の間サロン】 ・説明会等への参画 【認知症サポーター養成講座】 ・福祉部会役員を対象としたサポーター養成講座の開催(3/4)
2区	【お茶の間サロン】 ・世話人会への説明(再掲)
3区	【広報取材】 ・洗心園訪問(ボランティアニュース4月号)
4区	【広報取材】 ・ふれあいサロン(ボランティアニュース2月号)
5区	【広報取材】 ・ふれあい茶会(ふれまちだより4月号)
6区	【広報取材】 ・防災訓練同行(ふれまちだより12月号) ・認知症おたすけ講座開催(ふれまちだより12月号)
7区	【広報取材】 ・梅原月曜サロン(ふれまちだより8月号)
8区	【広報取材】 ・朝の勉強会(ボランティアニュース8月号)
9区	【広報取材】 ・ふれあいミニサロン(ボランティアニュース8月号)
10区	【広報取材】 ・男のサロン(ボランティアニュース2月号)
11区	【広報取材】 ・11区ふれあいサロン(ふれまちだより10月号)

(7) 市老人クラブ連合会大野支部万年青会連合会と「認知症おたすけ講座」の実施

10/18	9区	認知症おたすけ講座（認知症サポーター養成講座） 講師：キャラバン・メイト （地域包括支援センターおおの、市社協大野事務所） 受講者：39人
10/24	6区	認知症おたすけ講座（認知症サポーター養成講座） 講師：キャラバン・メイト （地域包括支援センターおおの、市社協大野事務所） 受講者：42人
11/23	2区	認知症おたすけ講座（認知症サポーター養成講座） 講師：キャラバン・メイト （地域包括支援センターおおの、市社協大野事務所） 受講者：40人

(8) 地区環境美化推進（花いっぱい事業）

市民の交流と生きがいを目的に、市内の障がい者福祉施設で育てた花の苗を地区環境美化推進のために栽培・管理しながら福祉コミュニティの形成をめざした。

花苗配布日	品種	数量
5/23	サルビア、マリーゴールド、日々草、ジニア	2,550個
10/18	パンジー	2,550個

(9) 地区給食サービス支援

地区福祉部会を主体とした互助の取り組みとして、一人暮らし高齢者や障がい者世帯へ安否確認も兼ねて給食弁当を宅配する活動に対して、その経費の一部を助成した。

実施地区：大野第2区 6回 230人
大野第5区 7回 101人

(10) 調査活動

ア 各区福祉部会活動概況調査の実施（年1回）

イ ふれあいサロン活動調査については、廿日市市のふれあいサロンマップづくりで併用した。

7 いきいき活動推進事業（吉和 自主・共募 414千円）

中山間地域・過疎地域に見合った地域課題やニーズから、地域への取り組みへと発展させるために市と連携を図りながら様々な事業を次のとおり展開した。

(1) あつまろう家（ひとり暮らし等高齢者懇談会）実行委員会への助成

ひとり暮らしなどの高齢者の集う場づくりのため、民生委員・ヘルスマイトグループ・コミュニティよしわ・ボランティア吉和・女性会・栄養士と協働し実施を支援した。

開催日	場所	内容	参加者（内訳）
6/21	吉和福祉センター	あつまろう家実行委員会 ・平成25年度の活動計画 ・平成24年度の反省事項	7人

8/29	開催： 吉和福祉 センター 調理： 保健 センター	あつまろう家開催 ・廿日市市警察署吉和駐在所から「悪徳商 法」等に関するお話 ・中学生によるミニコンサート ・保健師による体操 ・食事：料理教室メンバー、女性会、ヘル スマイトによる「カレーライス」他	35人 (対象者11人、 協力者16人、 児童クラブ8人)
12/19	吉和福祉 センター	あつまろう家実行委員会 ・前回の振り返り ・次回の計画について打合せ	8人
3/13	開催： 吉和福祉 センター 調理： 保健 センター	あつまろう家開催 ・廿日市市警察署吉和駐在所から「悪徳商 法」等に関するお話 ・ミニコンサート ・吉和診療所 吉川先生からの「一人暮らし の方へ役立つお話」等 ・食事：料理教室メンバー、女性会、ヘル スマイトによる「ちらし寿司」ほか	57人 (対象者32人、 協力者25)

(2) 料理教室～つくろう家～の開催

開催日	内 容	場 所	参加者
偶数月 6回	栄養士の指導のもと、地元の食材も取り入れながら、主にシニア世代の人たちを対象に実施。料理を「あつまろう家」で提供するなど、活躍の場作りにも努めた。	吉和保健 センター	延べ 71人

(3) 子育てサロンの開催

毎月2回、保育園・支所市民福祉グループ・市民センターとの共催により開催した。

(4) 福祉車両の貸出

地域の福祉団体等に「たすけあい号」の貸出を行うことで、自主活動を支援した。また、安全に車両を利用していただくために適切な車両管理を行った。貸出実績：76件

(5) 社協だより「ぬくもり」の発行

毎月1日、全12号を発行し全戸配布した。これによりボランティア募集、地域活動の予定および活動報告等の情報を地域に発信した。

(6) 葬儀用具の貸出

自宅や集会所等の地元で葬祭を執り行う場合に、社協が所有する葬祭用具を一式貸し出すことを行った。貸出実績 14件

8 ボランティア関連事業

(1) ボランティア活動推進事業(自主・共募・県社協助成・市補助1,816千円)

ボランティア活動促進のため、各種ボランティア活動に対する支援を次のとおり行なった。

ア ボランティア活動保険の取り扱いおよび加入助成の実施

イ ささえ愛ネットはつかいちの活動支援

(ア) 活動助成金の交付

ささえ愛ネットはつかいちおよび各支部に助成金を交付し、活動を促進した。

- (イ) ボランティア交流会（大野支部担当）の開催（6月8日）
参加者 75人
- (ウ) 「全国ボランティアフェスティバル 高知」への参加
参加者 17人
- ウ 大学と社協がすすめる若い世代の担い手づくり事業
- (ア) つながりづくりとして応援会議の開催（全6回）
- (イ) 活動づくりとして「学生のためのボランティア入門講座」の開催（2月15日）
参加者 3大学 20人
- (ウ) 情報づくりとして大学とボランティア登録カードの共有、情報提供方法の確立
- エ プラチナ大学（広島県高齢者健康福祉大学校）への協力
この事業は、広島県社協からの受託事業であり、地域を支える一員として支える一員として活躍するプラチナ世代やそのリーダーを育成するとともに、育成した人材を地域と結びつける仕組みづくりを目的として実施した。
また、広島県が提唱する「広島県プラチナ世代支援協議会」とも協働して、高齢者の健康と生きがいづくりに関する事業への協力や情報提供などの支援を行った。
- (ア) 運営協議会の参加（2回）
第1回 平成25年5月20日
第3回 平成26年2月19日
- (イ) 大学校の運営
- ・受講者数：30人
 - ・修了者数：29人
 - ・一般講座：13回、体験講座：1回
- オ 精神保健福祉ボランティアの養成・支援
精神保健福祉ボランティアねこの手の定例会へ参加し、ボランティア養成への意見を聞き取り、ボランティア養成講座を開催した。

開催日	内容	参加者
2/15	(1) 講演「障がいのある人の理解者として」 講師 日本赤十字広島看護大学 看護学部 精神看護学 准教授 笹本 美佐 先生 (2) 精神障がいの人を地域で支える取組みの紹介 ・精神障がい福祉サービスの紹介 ・精神保健福祉ボランティアの活動 (3) グループワーク 「精神障がいのある人たちのために地域でできること」	33人

- カ ボランティアスクール2013の開催
ボランティア活動に関心のある小・中・高・大学生などを対象に福祉施設などで体験学習を実施した。

開催期間	内容	参加者
8/2～8/24 計6日間	吉和地域内の福祉施設や高齢者のサロン（よしわせせらぎ園・吉和保育園・囲碁のつどい）と連携し、地域の高齢者、幼児との関わりをもつなど福祉教育の推進に努めた。	延べ 26人

- (2) ボランティア養成研修事業（佐伯 自主・共募 236千円）

- ア ボランティア調整および活動支援
ボランティアに関する相談に応じ、ボランティアの調整と活動支援を行なった。

イ れすとはうす「花かご」の管理運営

世代間交流やサロン開催、文化活動、相談活動等、ボランティア活動の拠点施設として、管理運営を行なった。また、年1回、花かごパンフレットを発行した。

【れすとはうす「花かご」利用実績】(前年)

開館日数	実施内容	来館者
187日 (211日)	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動(おもちゃの会、手話でおしゃべり、朗読の会、あけぼの会、) ・文化活動(パッチワーク、牛乳パック工作、編み物) ・ふれあいサロン(オルゴール、たまたまこ、ちゅうりっぷの会、こぶし会) ・行事(草抜き、花植え、フリーマーケット等) 	延べ2,230人 (2,561人)

ウ ボランティア連絡協議会「ひまわり会」運営連絡会の開催 年2回

エ ボランティア養成研修

ボランティア活動者、関心のある人等を対象にした子育て支援ボランティア養成講座を行ない、ボランティアの養成研修を実施した。

開催日	内 容	参加者
2/3	「子どもの体とこころ」「子育て支援の大切さ」	14人
2/12	「子どもの病気やけがについて」日赤幼児安全法指導員	11人
2/14	「こどもの遊びとコミュニケーションの取り方」 ボランティア体験	11人

オ ヤングボランティアスクールの開催

(ア) 年間を通して、ボランティア活動に関心のある中・高・短大・大・専門学生を対象にボランティア活動、交流、体験等を行なった。

開催日	内 容	参加者
7/27	「水まつり」での「みかん」出店の手伝い	3人
7/28	「わんぱく旅行」事前学習時の障がい児の見守り	3人
8/1	あいプラザ「1日喫茶」へ外出・見守り	2人
8/27	「大野小さな夏祭り」障がい児の見守り	2人
10/27	「心と心のハーモニーフェスタ」スタッフとしての体験	6人

(イ) 小学生を対象にボランティア体験学習「ふれあい探偵団」を開催した。

開催日	内 容	参加者
8/2	「宿題教室①」陶芸 友和の里	6人
8/9	「手話講座」手話サークルみなみ 「にじのえき喫茶」昼食 「ゆうわせせらぎ園」手話発表・交流	6人
8/22	「宿題教室②」陶芸 友和の里	5人
10/27	「心と心のハーモニーフェスタ」	5人

(3) ボランティア学園開催事業(大野 共募 16千円)

小学生全学年を対象として募集。多くの人との交流・体験を通し、福祉・ボランティアに対する意識を高めた。また、ボランティア連絡協議会や地域内の福祉施設、中学・高校生徒会の参画により、世代間を越えた交流を促した。合わせて、障がい者団体や家族会、中学生などと協働で、「小さな夏まつり」のスタッフとして活動できた。

開催日	内 容	参加者
7/24	入園式 手話体験	15人

7/25	音訳・点訳・アイマスク体験	18人
8/5	施設訪問介護体験（洗心園訪問） Aグループ	13人
8/6	施設訪問介護体験（アダージョ訪問） Bグループ	9人
8/20	「小さな夏まつり」への参画	22人

(4) ボランティアセンター活動推進事業（大野 自主・共募 197千円）

ボランティア活動の推進拠点である「ボランティアセンター」の機能強化を図り、ボランティア（個人およびグループ）が活動しやすいよう、相談・需給調整・養成・広報紙の発行など条件整備をすすめた。

(5) 災害救援ボランティア事業（共募・市補助・日赤 291千円）

ア 「廿日市市「被災者生活サポートボラネット」を継続し、防災講演会の開催
講演会 「災害時に活かす地域の連携力」

講師 NPO法人さくらネット 代表理事 石井 布紀子 さん

イ はつかいち災害救援ボランティアネットワークの活動支援

(6) 国際救援事業（廿日市 自主60 千円）

身近で取り組みやすいボランティア活動を推進することを目的に、衣料等の収集活動を通じ、ボランティア活動のきっかけとなるような取り組みを実施した。

ア 国際救援衣料収集

- ・地域の方から収集した衣類を海外の風水害による被災者、人種・種族間闘争等による避難民の方へ日本救援衣料センターを通じた衣類送付を行った。
 - ・廿日市市国際交流協会との共催で2回実施した。
 - ・廿日市西高等学校生徒、地域のボランティアグループ、個人ボランティアの協力を得ることができた。
- () 内は前年度実績

実施日	収集件数	協力人数	送料用寄付金額
5/25	ダンボール 50箱 (179箱)	33人 (55人)	42,956円 (96,443円)
10/26	ダンボール 392箱 (190箱)	33人 (43人)	189,512円 (106,255円)

※（カッコ内は前年度実績）

イ 使用済み切手収集

海外の方の健康を守ることを目的に、使用済み切手を地域の方から収集した。

切手仕分け作業を登録ボランティアへ紹介し、活動のきっかけづくりを行った。

9 福祉教育推進事業（自主・共募・市補助 887千円）

市内の小中学校が取り組む福祉教育活動について様々な支援を行うことにより、児童生徒への福祉教育を推進するとともに、小中学校と地域の連携を図った。

(1) 各種福祉体験学習における連絡調整

市内の小中学校が取り組む福祉教育活動等についての相談対応及び職員やボランティアの派遣調整、体験学習等で必要となる機材の貸出を行なった。

(2) 福祉教育活動助成

市内の小中学校 28校に対し、福祉教育活動に係る費用について助成金を交付した。

(3) 地域まるごと福祉教育連絡会議

県社協が実施した地域まるごと福祉教育推進事業（3年指定事業）の指定地域に対し、連絡会議を実施し、学校・地域と協働して事業を行なった。

指定地域	実施回数	実施場所	構成員
津田小学校区	2回	佐伯社会福祉センター	14人

友和地区では、学校支援本部のコーディネーター会議（月1回）に参画した。

(4) 総合的な学習への支援（吉和地域）

まなびの森 吉和学園（吉和小・中学校）が総合的な学習で取り組んでいる「福祉プロジェクト」について、児童および生徒が地域の福祉課題等を学び、自主的な活動を考えられるよう、吉和地域の福祉団体等と協働しこれを支援した。

内容	協働団体
せせらぎ園コース	よしわせせらぎ園 ボランティア吉和 吉和支所
高齢者の介護コース	
災害時レスキューコース	
ボランティアコース	

(5) もっとまるごと福祉共育創造事業

県社協実施のもっとまるごと福祉共育創造事業（3年指定事業）の助言等を行なった。

指定地域	会議回数	内容
浅原地区（3年目）	6回	総会・役員会・視察

活動内容

開催日	内容
4/12	事業報告会
5/21	役員会
6/29	総会
1/24	役員会
3/8	三次市甲奴町宇賀地区振興協議会視察
3/18	役員会

1月から毎月第1火曜日に、一人暮らし高齢者などの社会参加・交流を図るための会食を実施

(6) 社会福祉実習生の受入れ

社会福祉士等の国家資格取得に対する実習生の受入れを行なった。

機関等	時間	人数
広島文教女子大学	180	1人
広島福祉専門学校	180	3人

10 児童・生徒地域社会貢献活動支援事業（大野 共募 32千円）

児童・生徒が主体的に地域社会貢献活動を行えるように、活動場面の提供やボランティア団体の活動を支援した。

(1) 空飛ぶ車いす活動の支援

宮島工業高等学校生徒会による、故障した車いすを修繕して開発途上国に提供するボランティア活動「空飛ぶ車いす活動」を支援した。

(2) ビッグフィールド大野隊の活動支援

小・中・高校生で構成された市民活動団体「ビッグフィールド大野隊」の地域福祉活動に対し助成金を交付した。

(3) 大野福祉ふれあい祭りへの協力

- ・宮島工業高等学校建築科による「ふれあいステージ」設営と撤去

- ・大野中学校・大野東中学校生徒会による「ふれあいステージ」の司会進行
 - ・ビッグフィールド大野隊による会場の清掃活動
- (4) 小さな夏まつりの実施
「小さな夏まつり」(8月20日)を中学校生徒会と障がい児者団体の協働企画によりお祭りを実施した。

1 1 廿日市市吉和圏地域包括ケア推進事業 (吉和 委託657千円・新規)

吉和地域に生涯暮らし続けるために、地域住民を中心に行政、専門職等の協働による地域包括ケアシステムづくりを推進していくため、下記の通り会議等を行った。

内容	実施日	場所	参加人数
福祉 座談会	10/1	吉和福祉センター	45人
	11/18		37人
	2/27		32人
訪問 研修	12/13	小規模多機能ハウス「ひだまり倶楽部」 (山口県防府市) 特別養護老人ホーム「自由の杜」(山口県防府市)	28人
	2/23-24	NPO法人大曾倉ふれんど(長野県駒ヶ根市) NPO法人あんじゃネット大鹿 (長野県下伊那郡大鹿村) 大鹿村役場(長野県下伊那郡大鹿村) 大鹿村生活支援ハウス(長野県下伊那郡大鹿村)	6人

第3 関係諸機関を繋げる取組み

制度の供給側と当事者、そして社会資源を繋げながら、それぞれの立場で役割を担い、要援護者への支援に関わっていくための取組みを進めた。また、関係諸機関との繋がりを広げるため、市社協の取組みをさまざまな形で周知した。

1 福祉団体支援事業 (自主・共募1,687千円)

福祉団体が実施する福祉事業に対し、活動に対する助成を行なうことにより住民福祉活動及び自主運営を促進した。

(1) 福祉団体へ助成金の交付

【廿日市地域】 (単位：円)

廿日市市老人クラブ連合会	100,000	重度障害児者のつどい「ジョイフル」	150,000
社会福祉法人くさのみ福祉会	50,000	虹の会	10,000

【佐伯地域】 (単位：円)

機能訓練会「あけぼの会」	30,000	精神障害者家族会「こぶし会」	30,000
難病患者支援の会「草笛」	20,000	「パレット」 在宅障害児音楽療育	20,000
在宅介護者の会 「リフレッシュクラブ」	20,000	さいき障がい児と親の会 「みかん」	20,000
わんぱく旅行実行委員会	462,000	心と心のハーモニーフェスタ 実行委員会	660,000

【吉和地域】

よしわ障がい児と親の会 「つぼみ」	5,000
----------------------	-------

(2) 各団体との協働事業の模索

佐伯地域、吉和地域における障がい児と親の会への活動支援を行なった。

開催日	場所	内容	参加者
12/15	津田市民センター	○当事者、保護者、ボランティアでクッキング ○就職、進学などについて保護者間の情報交流 ○レクリエーションによる交流	みかん 30人 つぼみ 4人 ボランティア 6人 合計 40人

(3) 福祉関係団体事務支援事業(吉和、宮島)

福祉関係団体の事務や事業の支援をとおして自立運営を支援した。

ア 吉和地域：老人クラブ・障害者福祉協会

イ 宮島地域：老人クラブ・障害者福祉協会・遺族会

2 広報啓発事業 (自主・共募3,040千円)

広報紙の発行やインターネットを利用した情報提供を通じ、市民や各種機関に広く市社協の取組みや市内の福祉活動の動向をお知らせし、住民の福祉への関心を高め、福祉活動への協力者を増やした。

(1) 市社協パンフレットの発行

市社協事業の概要を掲載したパンフレットを各戸に配布し、市社協の事業を広く住民にお知らせした。

(2) 市社協だより「あいとぴあ」の発行

偶数月の15日に市社協だより「あいとぴあ」を新聞折り込みなどで各戸に配布し、市社協の取組みや行事案内、地域の福祉情報を広く住民にお知らせした。

(3) ホームページの運営

市社協の取組みや行事案内、地域の福祉情報をホームページに掲載し、タイムリーな情報を住民にお知らせした。

(4) 各事務所独自の広報紙の発行（各事務所）

3 福祉まつり事業

高齢者、障がい児者、福祉施設職員、子ども、ボランティア等、多くの市民が参加し、ふれあいつながりあい、誰もが住みよい地域づくりの場として次のとおり開催した。

(1) あいプラザまつり（廿日市 自主・共募・市補助 320千円）

「生涯学習フェスティバル」と同日開催した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
11/10	あいプラザおよび新宮中央公園	約 4,000 人	251 人

- ・ ささえ愛ネットはつかいち廿日市支部による手話、音訳、点訳、要約筆記の体験コーナーを設置し、ボランティア活動の周知を行った。後日、体験者の一人が点訳ボランティアグループに参加された。
- ・ 平良小学校の児童による喫茶コーナーと、サロン活動パネルの展示を同一の会場で実施した。これにより世代間交流の輪が広がった。
- ・ 廿日市小学校の児童の協力を得て、また風船の配布等を通して共同募金活動を行った。

(2) 心と心のハーモニーフェスタ（福祉団体支援事業）（佐伯 自主・共募）

実行委員会形式で実施し、48団体が参加した

開催日	会場	来場者	ボランティア
10/27	さいき文化センター	1,600 人	200 人

- ・ ささえ愛ネットはつかいち佐伯・廿日市両支部の協力により、手話・点訳・点字の体験コーナーを設置した。同時に、ボランティア活動およびサロン活動を紹介した。
- ・ 佐伯地域の全社会福祉施設が参加し、市民と交流ができた。

(3) すこやかプラザまつり（吉和 自主・共募 25千円）

「吉和文化祭」と同日開催した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
11/2	吉和福祉センター (すこやかプラザ)	約 200 人	12 人

- ・ 支所、包括支援センター、よしわせせらぎ園、廿日市人権擁護委員およびボランティアよしわと協力してスタンプラリーを実施した。

(4) 福祉ふれあいまつり（大野 共募）

平成 25 年度は、「健康を守る集い」と同時開催で「健康福祉フェスタ」として、大野地域での福祉と健康に関する集いとして開催した

開催日	会場	来場者	ボランティア
10/6	大野福祉保健センター	3,500 人	250 人 ※前後の準備・撤収ボランティアを含む

- ・宮島工業高校の機械科・建築科・インテリア科と共催で、子どもに対する新たな企画を考えた。
 - ・各地区社協の活動、老人クラブ「万年青会」の作品等を展示した。
 - ・東西中学校生徒会が生徒会活動の紹介を行ない、ステージの進行役も担った。
- (5) 地域ふれあいフェスタ(宮島 自主・共募)
福祉関係団体・ボランティアなどと協働し、「手作り感」を意識して開催した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
8/2	宮島福祉センター	200人	95人

4 共同募金運動協力事業 (自主)

共同募金が民間福祉活動を支える重要な財源であるという趣旨の周知徹底を図り、赤い羽根共同募金運動、歳末たすけあい運動を展開し、目標額13,875,000円の達成に努め、達成率は100.3%(前年度:98.1%)だった。

(単位:円)

	廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島
戸別募金	4,380,757	1,119,550	246,000	2,515,370	215,100
街頭募金	0	0	0	0	16,163
法人募金	285,000	70,000	119,000	160,000	10,000
学校募金	46,271	20,387	2,119	44,041	0
職域募金	147,203	11,568	50,000	98,515	0
イベント募金	62,963	3,600	460	1,720	0
その他募金	318,749	500	29,695	10,760	47,120
歳末募金	0	1,170,690	0	2,507,526	210,187
合計	5,240,943	2,396,295	447,274	5,337,932	498,570

総計 13,921,014円 (前年度 13,867,493円)

5 日本赤十字社社資募集協力事業 (日赤 1,652千円)

赤十字事業の趣旨および必要性の周知を行い、社資(社費・寄付金)を募集した。5月を社資募集運動月間として、目標額13,926,000円の達成に努め、達成率は80.6%(前年度:82.2%)であった。

また、火災などの災害に対し救援物資を交付するとともに、東日本大震災をはじめ国内外で発生した台風・地震・大雨などの大規模災害への義援金・救援金募集および周知を図った。

- ・日赤社資募集実績 ()内は前年度実績

一 般 社 資
11,231,120円 (11,539,042円)

～円滑な事業推進体制のために～

「市民生活に即応した社協の仕事をどのように市民に提示できるか」、そうした基本認識の下で、計画目標を持った適正な執行管理を実現し、地域福祉の具現化を図り、自立した「ありたい廿日市市の地域福祉の姿」の創出を目指した。

1 中期経営計画の策定

財源減少が懸念される市からの受託・補助事業、自主事業。

そうした事業をより良い形にしていくため、役員から事務局まで組織が一丸となって将来の地域福祉の姿と活動目標を共有するため、経営計画担当を置き、20回にわたる「中期経営計画策定会議」及び「職員ワークショップ」を開催し、中期経営計画を策定した。

2 職員人材育成事業

人材育成として、これからの市社協の方向性を共有するため、「職員全体研修会」を3回、新規採用職員に対し市社協の基本的事項を取得させるため「新規採用職員研修」を6回開催した。併せて、県社協主催の各種研修や関連団体等が開催するテーマ別の専門研修に積極的に参加した。

(1) 職員全体研修会

開催日	テーマ	目的
5/12	中期経営計画策定 ワークショップ	中期経営計画策定のため、職員間のディスカッションを行う。
9/28	災害発生、その時 あなたはどうか動く	災害時の職員対応について考える
1/11	中期経営計画策定	・計画の全体像を理解する。 ・重点プロジェクトとアイデア出しと優先順位づけ

(2) 新規採用者研修会

開催日	テーマ	目的
4/17	就労条件等	就業における遵守事項、勤務条件などを知る。
6/19	社会福祉協議会が行っている事業について	事業目的を把握し、適切な事業運営に繋げる ・事業体制の把握 ・独自事業の背景の把握
7/19	社会福祉協議会の役割・機能と働き方	社会福祉協議会がすべきことを再認識する。
8/20	社会福祉協議会の経営・経理	経営状態等を知ることによって、事業を展開する上で、経営感覚を持ちながら行えるようにする。
10/3	採用されて半年を経過して	入職後の自己点検及び整理を行う。
2/21	社会福祉協議会の運営について	組織・法的根拠等を把握する。

3 自主財源の確保・組織のPR事業

寄付・会費という地域福祉への参加・貢献の動機づくりと、会員に対しての謝意を表するため、市社協の団体会員並びに賛助会員のお名前をあいプラザ正面入り口に掲示するなどPR活動に取り組んだ。また、昨年同様、イベント時に会員勧誘をするなどその周知に努めた。

平成25年度 役員会等開催状況

1 理事会

	開催日	主な議題	出席状況
平成25年第2回	5/17	(1)H24 事業報告および資金収支決算 (2)評議員選任の同意について	15人
平成25年第3回	5/25	(1)会長・副会長の選出について	15人
平成26年第1回	3/12	(1)H26 事業計画および資金収支予算 (2)H25 資金収支予算の補正 (3)表彰規程の改正 (4)役員等報酬および費用弁償規程の改正 (5)評議員選任の同意について	14人

2 正副会長会議

	開催日	主な議題	出席状況
平成25年第2回	10/22	(1)H26 予算編成方針等説明	3人
平成26年第1回	2/27	(1)H26 事業計画および資金収支予算 (2)規程の改正	3人

3 専門部会

(1) 財務部会・事業部会合同会議

	開催日	主な議題	出席状況
平成25年第2回	10/28	(1)H26 予算編成方針等説明	9人
平成26年第1回	3/6	(1)H26 事業計画および資金収支予算	8人

(2) 総務部会

	開催日	主な議題	出席状況
平成26年第1回	3/6	(1)規程の改正	5人

4 評議員会

	開催日	主な議題	出席状況
平成25年第2回	5/23	(1)H24 事業報告および資金収支決算 (2)理事・監事の選任	36人
平成26年第1回	3/25	(1)H26 事業計画および資金収支予算 (2)H25 資金収支予算の補正	32人

※出席者には、監事を含む。

5 監査会

開催日	主な内容	出席状況
5/8・9・10	H24 事業報告および資金収支決算に対する監査	3人
11/18	H25 上半期の会計・財産状況に対する中間監査	2人
11/29・12/2	H25 上半期の事業に対する中間監査	1人

6 役員等研修会

開催日	主な内容	出席状況
5/25	講演 社会福祉協議会の役割と今日的課題 講師 広島県社会福祉協議会事務局次長 新谷恭規 氏	41人
3/12	講演 少子高齢社会における社会保障を考える 講師 神奈川県立保健福祉大学名誉教授 山崎 泰彦 先生	32人